

南シナ海の埋立工事と中国防空識別圏

漢和防務評論 20141201 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

最近、中国による南シナ海珊瑚礁埋立が話題になっています。漢和防務評論誌に関連記事がありましたので紹介します。

同誌は、南シナ海での埋立の目的は、海軍基地建設と同時に戦闘機、爆撃機の発進基地を建設し、防空識別圏を設定することにあると述べています。最終的には南シナ海の制海権、制空権を掌握し、米軍を排除して海底資源を独占するつもりでしょうか。

KDR 香港支局特電：

2014 年 8 月以降、中国は、南シナ海珊瑚礁の埋立工事を加速している。これらの珊瑚礁の中国名は、それぞれ安達礁、南熏礁、永暑礁、東門礁、赤瓜礁、及び華陽礁である。今回の大規模埋立について、政策決定権者を良く知る人物は、KDR に対し次のように述べた：海南省及び海軍からの具申は何度かあり、胡錦濤にも何度か具申した。習近平就任後は、同様の具申が、習近平に直接なされた。海軍は、本来それほど強く要望していたわけではなく、周近平が特別予算計上を許可したことを知らなかった、と。

この埋立工事の結果は、南シナ海における中国海軍の前進基地を 900 KM 前進させることになる。安達礁から華陽礁までは 260 KM ある。上述の情報源によると、この 2 つの珊瑚礁に飛行場を造り、その他の珊瑚礁上にはヘリポートを造るといふ。赤瓜礁と東門礁は大規模に埋め立てるようだ。

この珊瑚礁埋立の動きは、中国が南シナ海に海軍基地を建設し、また防空識別圏を設定する計画があることを示している。中国がこのようなスピードで南シナ海を埋め立てる目的は、明らかに 2015 年に南シナ海に防空識別圏を設定するための準備である、と KDR は考える。さらにこの 8 月に J-11BH 戦闘機が海南島の西南 220 KM で米軍の P-8A を迎撃したことから、中国は南シナ海防空識別圏設定を重視している。現在の埋め立ての状況から判断すると、上述珊瑚礁の埋立工事は、海軍航空部隊の戦闘機及び爆撃機の離着陸用飛行場及び軍用埠頭建設に向って進んでいる。

安達礁及び華陽礁の位置を基準として防空識別圏を設定すると、マレーシア、フィリピン、ベトナムと利益衝突を起こすことは必定だ。

中国の東シナ海への防空識別圏設定基準を根拠にすると、第一に、「防空識別圏

は、”中国領の島嶼”を包含する 200 海里排他的経済水域を以て線引きされる」ことになる。また中国は紛争中の海域は出来るだけ中間線を基準とすると定めている。たとえそうだとした場合、今後設定される南シナ海防空識別圏は、マレーシア、フィリピン、ベトナムとの衝突をもたらすことになる。まず、第一に華陽礁をみると、ベトナム海岸線から 490 KM、マレーシア西部海岸から 470 KM、マレーシアが管轄する LAYANLAYAN 島から 202 KM の距離にある。赤瓜礁は、フィリピンの PALAWAN 島から直線距離で 336 KM である。このことは、これらの島礁の位置を基準とする中国南シナ海防空識別圏は、マレーシア、フィリピン、ベトナムと部分的に重なることを意味する。同時にマレーシアが管轄する LAYANLAYAN 島及びフィリピン、ベトナムのその他の島礁を囲い込む形になる。もしこの地区に新たな軍用飛行場が建設され、中国戦闘機、及び H-6 爆撃機に供されると、マレーシア、フィリピン、ベトナムは防空の縦深性を失うとともに、これら 3 国は、すべて中国戦闘機の作戦半径に含まれる。特にベトナム南部のビエンホア空軍基地、全てのマレーシア軍用飛行場、及びフィリピン南部の海空軍基地が含まれる。

現在埋立工事に使用中の施設機材を見ると、中国の工事目的が分かる。第一は海面の埋立である。華陽礁、赤瓜礁では約 300 M 巾の人工島に埋め立てられている。埠頭を見ると、現在の規模では 2000 トン前後の漁船、漁政船、水上艦が停泊できるが、今後逐次拡張されるであろう。さらにその後、永興島のように樹木を植え緑化されるであろう。樹木の人工移植は次の段階である。

これらの環礁は、点に過ぎないが、今後これらの環礁は逐次拡大され、さらにその他の珊瑚礁も開発される。現在の建設スピードを見ると、第一期の埋立工事は 2015 年下半期には完成するように思われる。一旦埋立工事が完成すると、中国は南シナ海防空識別圏を正式宣言する可能性がある。

以上